

## 会議録（要旨）

会議の名称	令和4年度第2回南アルプス市行政改革推進委員会		
開催日時	令和4年11月24日（木） 午後2時00分～午後2時45分		
開催場所	南アルプス市役所本庁舎 本館3階大会議室	公開の可否	可
事務局	総合政策部 政策推進課	傍聴者数	0人
出席者	委員	外川会長、石川会長職務代理、松本委員、常盤委員、岩間委員、久保田委員 藤巻委員、加藤委員、角委員	
	事務局	櫻本部長、依田課長、伊藤課長補佐、内藤、望月	
欠席者	軽部委員、上野委員、中込委員		
内 容			
【令和4年度第2回南アルプス市行政改革推進委員会】			
1 開会 午後2時			
2 会長あいさつ			
3 協議事項			
（1）第4次南アルプス市行政改革実施計画の取組み結果について 事務局より内容を説明			
（主な意見、質問）			
・財政的効果について、昨年度までの報告書ではふるさと納税の寄付金額や、ごみ袋の広告料等の効果額が記載されていたと思うが、今回の報告書ではそのような項目がなくなっているのは何故か。			
→昨年度までの第3次行政改革実施計画の取組みの中では、ふるさと納税の取組みや具体的な金額目標が設定されていたが、今回は第4次行政改革実施計画の取組み報告なので、ふるさと納税の取組み目標はないため、このような記載となっている。			
・昨年度は載せて今年度は載せないとなると、財政的効果額の指標が変わってしまうがどうか。			
→ふるさと納税額自体は把握しているが、今回はあくまで第4次の評価であり、3次の評価ではないことをご理解いただきたい。			
・適切な経費削減について、市役所では省エネルギーや経費削減の取組みとして、例えば太陽光パネルの設置、LED化を推進する等、具体的な方策はあるか。			
→公共施設のLED化等を実施するために、南アルプス市公共施設等総合管理計画を改訂し、施設の脱炭素化、省エネルギー化の方針を掲げている。			
・LED化については、どのくらいの時期を目途に実施予定であるのか。			
→国の施策である「まち・ひと・しごと総合戦略」に基づき、公共施設のLED化について、令和5年から7年度までの3年間でできる限り実施するよう財政当局と協議中である。			
・国が策定する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に応じて、各自治体でも同戦略を策定するよ			

う求められているが、南アルプス市ではそちらの方で謳っているということか。

→そのとおりである。昨年度までは、LED化についての対応策の記載がなかったが、今年度の7月に審議会を開き、改訂したものを今年10月に国へ提出し、承認されている。

・今回の第4次実施計画について、計画を作る時に委員だった方も何人かいらっしゃるが、実施計画自体はもう決まったもので、その結果についての報告である。こういう項目が入っていないではないか等あるかと思うが、前回の委員で実施計画はこうしていこうと決めているので、その点はご承知いただきたい。

・取組み達成度のA、B、C、Dの四段階評価について、A評価が9、B評価が29でC、Dの評価が一つもない。自分も第4次の計画策定には携わっていたが、目標自体が甘かったか易しすぎたということではないのか。5か年計画の初年度で、C、Dが一つもないというのは、採点の基準・達成度の設定が甘いのか、目標が簡単すぎなのか、民間人の感覚からすると、こういった数字が出てくるのは不思議である。

・取組み達成度の一番評価が低いのがD、その次のCが一つもないというのは、概ね上手くいっているという結果である。民間出身の人間からすると違和感があるということであるが、この点について事務局から説明願いたい。

→第4次実施計画は5年間の期間について目標を設定しているなかで、最終年度に向けて、令和3年度、4年度、5年度と年度目標が設定されている。そのため、今回は年度目標について達成したかどうか、課題があったかどうかを取組み主管課にヒアリングし、評価を実施している。あくまで年度目標に対してどうだったかということに記載していることをご理解いただきたい。

・年度ごとに評価をしていくということだが、今年度Aの評価だったものが次の年にB評価、C評価になることもあるのか。また昨年行われた第3次実施計画取組み結果報告の中で、最終年度の評価は5年間の総合評価なのか、単年度の評価なのかという質問があったが、第4次の評価については最終年度の単年度評価と5年間の総合評価の両方があっても良いのではないのか。

→第4次については5年間の総合的な評価も検討する。

(事務局から補足)

資料2「第4次行政改革実施計画取組み結果」で、例えば5ページの「基金の適切な運用」をご覧いただきたい。今回は令和3年度を振り返った時に記載されている目標を達成できたかどうかということだが、目標については令和3年度から令和7年度の各年度で、それぞれここを達成していきたいという基準を設定している。その基準をどの程度達成しているかということ、実績に基づき各取組み主管課において評価している。そのため、5年後にはより厳しい目標設定がされており、もしくは目標値が最大まで設定されている取組みについては、今後これを維持していかなければならないという意味で同じ目標値が設定されている取組み項目もある、ということをご補足させていただきます。

・自治会への加入促進について、自治会から抜けるという家庭もあるなかで、防災面においても自治会へ加入している方が良い部分もあるので、市でも加入促進の努力をお願いしたい。

→担当課の方で「自治会加入促進ハンドブック」等を活用しながら加入促進の取組みを進めている。最終年度では77%まであげていこうという目標設定になっているので、目標値に向かって今後取組みを強化していくと思われる。担当課には意見として伝える。

・自治会の加入率が低下しているというのは、どの自治体も基本的には共通している。一つの要因として、自治会の高齢化があげられる。また、現在は非常に多世帯化していて、今までなら本来家を継ぐはずだった子どもが、親と離れた地域に居住することが多く、加入率低下の要因の一つとなっている。ある自治体では、職員の方が自治会を受け持ち、様々な対策を講じている。その点については南アルプス市ではどうか。

→南アルプス市では6つの地域が合併しており、各地域の自治会は、窓口サービスセンターが窓

口になっている。また、自治会連合会の窓口は本庁の市民活動支援課が担当しており、各部署で分散して自治会の運営に当たっている。

- ・自治会の加入率を上げるのは非常に難しい。高齢化が進んで若い人たちが入らないと、新しいことができない。自治会への加入促進について、市では是非対応策を考えてもらいたい。

- ・自治会について、自治とは、自分のことは自分でやるという意味であり、民主主義の原点である。しかし、出来ない人もいるので、代わりに行政組織を作っている。助け合いといっても全員が同じように助け合えるわけではなく、助けてもらうだけの人もいるし、助けるだけの人もいる。ただ、世代を超えて、時代を超えていくと、やはり全員が負担するというのが民主主義の原点である。なので、年を取ったから自治会に入るとかということではなく、自分たちは民主主義の国、あるいは組織の一員であるという原点があり、それが頭に入らなければ、何もメリットがない、会費だけ払って損するという考えになってしまう。民主主義は赤ちゃんの時から教えないと、年を取ってから初めて民主主義の原点は自治であるから自治会に入りなさいと言われても、簡単に理解はしてもらえない。そのため、長期戦略で取り組みをしていかないとならない。単に加入率をあげるのではなく、長期的に加入率が自然に上がっていくような啓発事業をしなければならない、という覚悟が必要である。

- ・冒頭に会長あいさつで、行政の効率性、公共性、安定性について、この三つはしばしば矛盾・対立の関係になるということを前提に行革を考えなければならないという話があった。そのことを市民が共有した上で、市の行政に対して提案し、時には批判をしていかなければ、物事が対立したまま終わってしまう。非常に感銘を受けたので、お礼を申し上げたい。

#### 4 その他

#### 5 閉会 午後2時45分

備考	
----	--